

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 岐阜県教職員自主研修会

テーマ 教職員のよりよい働き方を目指して

取組のポイント・成果

1 実践（申し込み延べ人数 107名 21都道府県 うち岐阜県 46名）「 」内は参加者の声

(1) 令和5年8月7日（月）オンライン講演会①

『働きがいがあって、働きやすいご機嫌な職場』の実現のために何ができるか
 講師：信州大学准教授 荒井 英治郎 氏

働き方の教科書のような資料の中から、社会の変化に伴う働き方の変化や、働き方改革の目的、組織の在り方などについてお話していただいた。



「それぞれの先生が働きがいと働き方を持っている。それを認め合うことが前提かなあとと思います。その上で、対話を通してお互いに譲ったり、許したりする地道な取り組みが大事だと思っています。行政が、管理職がやってくれたら、働き方改革が進むという考え方はきっと難しいと思っています。」

(2) 令和5年9月2日（土）オンライン講演会②

「通常の学級における特別支援教育－インクルーシブ教育システムの実施に向けて－」
 講師：新潟大学教授 長澤 正樹 氏

「全ての子ども達がわかりやすく、参加できる学び(UDL)」「学級全体で取り組むSST」などを行いながら、実態に応じて個別の支援を行っていくこと、また、子ども達の思いをよく聞くことが大切だと教えていただいた。



「本来なら、特別支援で行っている教育はどこでも誰でも行わなければいけないかもしれない。それができる環境を整えていくことが、働き方の改革にもつながるのではと思った。」

(3) 令和5年11月18日（土）オンライン講演会③

「人それぞれの功罪」 講師：早稲田大学文学学術院教授 石田 光規氏

「自己責任論」「自粛警察」などの社会的な問題や、大学生の実態について触れながら、人の繋がりや在り方や仕組みづくりなどについて教えていただいた。



「『学校が息苦しい場所にしたいくない』と改めて思いました。子どもも大人も健全な衝突を恐れずにすすみたいと思います。月曜日ちよど本校の職員で、ゆるゆる雑談タイムをやることになっています。『開催することの重要性』という言葉をいただき、エネルギーがわいてきました。」

2 成果（「 」内はアンケートに寄せられた参加者の声）

- ・「大変満足した」82.4% 「満足した」17.6% （3回の平均）
- ・「なかなかないテーマだったので、新たな視点が得られて良かったです。」
- ・岐阜県の教職員が自治体や都道府県を超えて共に学び合えるよう、全国の教職員、行政職員から参加を募った。様々な校種、立場（事務職員、養教、SC、行政職員等）が参加した。「内容もですが、全国の先生方と学べる場があることが幸せです。」「様々な場所、立場の方と学べてとても良かったです。」
- ・オンラインを使用し、参加や学びへのハードルを低くすることができた。「オンラインで参加できることは家庭がある身としてはありがたい。また、アーカイブで何度も見返すことができた。」
- ・事前にテーマに関わるアンケートを行い、講師に結果を伝えて講義に生かせるようにした。また、学ぶ視点を焦点化できるよう、会の冒頭で結果を共有したり、メールで送付したりした。
- ・参加者のアンケートの結果から浮き彫りになった課題をもとにテーマを設定し、3回目の会を行った。

今後の課題

- 若手職員への啓発、講師と参加者の対話の時間の確保、参加者の交流時間の充実、周知・広報の工夫、学びの活用とその把握、

教員免許更新制度が廃止され、教職員の学びの在り方は過渡期を迎えている。「与えられた学びではなく自主的に学んだ方が得るものも大きいと思った。」「様々な課題は一朝一夕に解決できないからこそ、このような会は継続していくべきだと思う。」という参加者の声があった。学びは身近なモヤモヤにあると考えている。今後もよりよい働き方に繋がる学びの場づくりを追求していきたい。